

□私の意見

市民共通の遺産 小磯記念美術館

福尾 重信

〈神戸市立小磯記念美術館長
神戸市教育長〉



11月3日の「文化の日」にいよいよ神戸市立小磯記念美術館が開館しました。この美術館は神戸が生んだ日本洋画壇の巨匠、故小磯良平画伯の作品を中心に收藏、展示するものです。昭和63年に小磯画伯が亡くなられ、その翌年にご遺族から神戸市に貴重な作品約二千点が寄贈され、それを契機に画伯の偉業と業績を長く後世に伝え、とともに、小磯芸術の素晴らしさを市民共通の財産とするために作られました。

平成元年に美術館建設の具体化に取りかかり開館の運びとなりました。私も各地の美術館によく足を運びますが、訪れた美術館が周囲の景観などとうまく調和し、落ち着いた雰囲気の中で、自分の好きな作品と対面できたときは最良の喜びを感じます。

小磯記念美術館の特色を列挙すると次のようになります。一番目には、六甲アイランドの広々とした芝生公園の中にあり、美しい緑につつまれていることです。二番目には、建物の中央部に中庭をつくり、それを取り囲むように回廊が配され、開放的で明るい雰囲気をもっていることです。三番目には、小磯画伯のアトリエを復元し、作品の創作過程を具体的に知ることができるようになっています。四番目には、作品の収集には限界があるため所蔵品だけでなく他の美術館の小磯作品を映像で紹介するハイビジョン・ギャラリーを設けていることです。110インチの大型画面を通して高品質画像の映像による作品鑑賞が可能です。五番目には、この種の美術館には稀な研究室を備え、内外の小磯研究者利用に供するようにしています。今後の「小磯芸術」研究が積極的に進められることでしょう。

これからは「小磯記念美術館」を訪れたら「小磯芸術」のすべてがわかるよう收藏品、資料収集などに力を入れてまいります。開館を記念して11月3日～12月13日まで特別展「小磯良平の世界」を開催いたします。

市民の皆さまどうぞご鑑賞ください。

Juchheim's
Für jeden auf seine Gesundheit
Wohl. Preis 100,-

Golden Interlude

ちよつとすてきな気分をあなたに

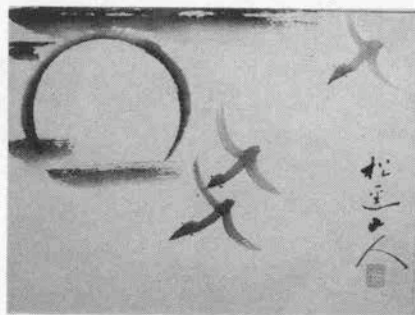
ひとときの輝き、インタリユード

インタリユードは間奏曲

洋菓子歴史とともに歩んできたユー・ハイムが
あなたに贈る 心なごむくらしの暮合い
"ゴールデン インタリユード"



KAKINUMA GALLERY



「初 雁」(南画)

牛田憲三・作

諏訪山稲荷の近く、小道ぞいの笹の中に点々と山萩の小林がある。中秋の頃には良い風情。一本の柿の木の2、3枚が真紅になっているのも、コスモスが道端一杯咲き乱れているのも美しく、優しい。しかし、やはり秋には萩が画きたくなる。

(柿沼産婦人科に展示11/1~11/30)

麓 柿沼産婦人科

★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り

☎(0797) 31-1234 (FAX兼用)

月曜～土曜まで診療しています。木曜・土曜は午前のみ。

当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

ぼくを育てた……

伊勢田史郎

絵／石阪 春生

ぼくを育てたのは人工の河だ

巨きな丸太が筏に組まれて浮かんでいる

その間隙をぬって 幼い夏を泳いだ

工場のながした廃油が ときには胸に べっ

たり付いたが

ぼくを育てたのは冷たい渚だ

木の栈橋が沖に向かって突き出ている

その先っちょから飛翔した ほんの暫時

水泡 につつまれた紺青のめくるめき

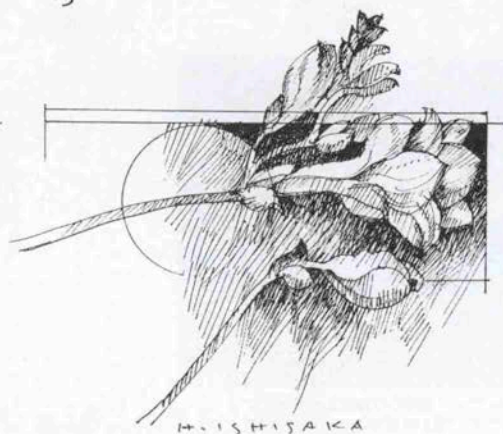
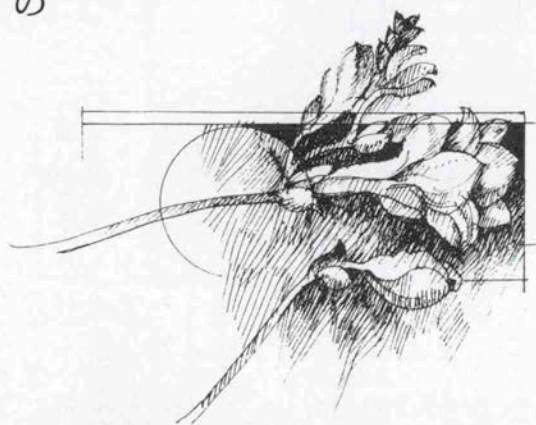
ぼくを育てたのは低い山と貧しい谷巖だ

馬酔木と熊笹のなかに径が消えている

その藪をかきわけて 歩きつづけた

悔恨がまた 汗とともに滴り落ちる 萱場の

道を 風が今日も吹きぬけていく



随想 二題



空間と彫刻——松井武判展
10月22日～12月23日 芦屋市立美術館

モンゴルへ中古衣料 神戸港から船積み

山本 修

（上野民報社）



太平洋戦争が終った昭和二十年代は空襲による焼け跡に掘って建て小屋で、食糧や生活物資の不足など日本人は苦しかった。アメリカから放出物資という援助で粉ミルクや中古衣料が闇市場に並んだ。ソ連の崩壊と市場経済移行で、生活物資不足に悩むモンゴルに中古衣料が贈られた。九月三十日、神戸港・摩耶ふ頭に停泊した中国貨物船にコンテナ十個が積み込まれた。

衣料を贈ったのは3351D地区（西兵庫）六十四のライオンズクラブと、商社など二百法人が出資する日本救援衣料センター。ラ

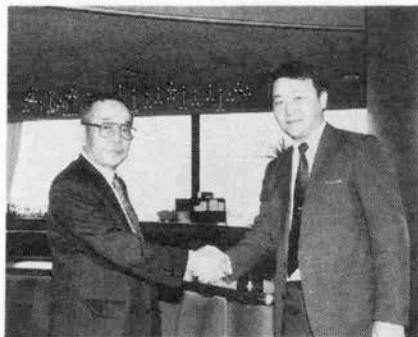
イオンズクラブの会員 三千七百人は「一人につき段ボール一箱」を目標に、二千八百箱、約六万点の衣料を集めた。

東京から駐日モンゴル大使館員が来て、船内の一室で両組織の代表から目録が渡された。パンティーン・ガンホヤック商務官は、援助の手が差し伸べられたことに感謝したあと「いつまでも援助に賛ってられない、モンゴルの開発を日本と共同して進めたい。私は産業経済の担当をしているので、連絡して欲しい」といった。

このあとポートピアホテルに会場を移して、ライオンズC役員約二十人はガンホヤック商務官と懇談した。「モンゴルの国土は日本の約五倍だが、人口は二百十万人と少ない。従業員五・六人の小さな工場を民間合弁経営で推進したい。日本の古い靴下製造機械を入れて操業している例もある。教育に期間がかかるので、技術の習得

にも配慮して欲しい。十月には北海道で交流の計画もある」という。五年前から中国に工場を建てた四国の割箸メーカー経営者も同席して実例を話した。「中国沿海部の開放地区での人件費は平均月収五百元（二万円）。奥地では百元（二千元）のところ。二百万円が工場を建てている。日本の港着値が一本二円と半値でできる」といった。この横関さんはいまモンゴルへの工場進出にも関心を示している。労働難の経営者には興味のある話だった。また衣料品の40%は中国で縫製されているともいう。

モンゴルへは次に11月にも贈る計画がある。また来年七月に救済物資到着の確認と、交流の目的で旅行の計画もある。近代に汚染されていないモンゴルへの旅行が最近ブームになっている。パオに宿泊して排気ガスのない大気には、満天の星が眺められるという。



ガンホヤック商務官と握手するライオンズクラブ3351D地区ガバナー山口孝雄氏

おしゃれな美術館が 音楽空間として デビュー

出版 見文

セラ・フュージョ
ンコンサート企画
ディレクター



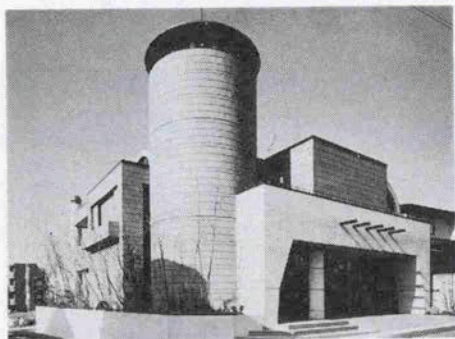
閑静な阪急御影の地に建てられたおしゃれな世良美術館。「アートなおしゃべり、しましょ」を合言葉として4月末に開館してから、東灘区の白鶴美術館、香雪美術館と並ぶ新名所として、いま熱い注目を浴びている。

町並みにマッチしたデザイン性が評価され、神戸市建築文化賞、兵庫県さわやか街づくり賞など数々の賞を受賞しており、初めて美術館を訪れた人々は誰もがレンガ造りの落ち着いたたたずまいに心をひかれる。一歩足を踏み入れると大理石の床、ガラス越しに小花咲く緑の庭園が目に入り、白壁には小磯良平画伯、世良臣繪先生の絵画がほどよい調和を保って展示され、まさに全体がアートの世界。その美術館でこのたび新しい企画の一つとして、オープニング記念のセラ・フュージョンコンサートが、9月5日(土)2回公演で開催された。

オープニングを飾るゲストは上海出身の若手ですばらしい実力の古箏奏者である伍芳(ウーファン)

さん。彼女は現在、京都の大学で勉学に励みながら、積極的な演奏活動を行っているが、9歳より古箏を始め、上海音楽学校を首席で卒業した実力の持ち主である。「中国伝統音楽のすばらしさを一人でも多くの方々に知ってもらいたい」と言う彼女にとっては初めての神戸でのリサイタルとなった。「古箏」という楽器は春秋時代に秦の地で使われていたとされ、長い歴史をもつ。最初は12弦が主流であったが、改良が加えられ、彼女が弾く古箏は21弦。音色は明るくて音に厚みがあり、4オクターブの音域をもつ優美華麗な表現力の豊かな楽器である。

絵の前で演奏する伍芳の音楽は、聴く人々に新鮮な感動を与え、音と絵が醸し出す幻想的な雰囲気の中で、誰もが時のたつのも忘れるほどの素晴らしい演奏会であった。



レンガばりのモダンな建物「世良美術館」



中国の伝統民族楽器・古箏を弾く伍芳さん

た。「こんな素敵な雰囲気の中で、演奏できて感激で一杯です。これから頑張ります」と言う彼女は今後新しい音楽分野へのチャレンジ意欲も十分で、世界の檯舞台をめざしてこれからの成長が楽しみな逸材である。

このたびの、美術館でのコンサートという新しい試みは一つのチャレンジではあったが、雰囲気は言うまでもなく音の透明度、残響度など音響面においても音楽空間としてのすばらしさが、各方面からの称賛により実証できた。まさに世良美術館が、音楽空間としても新たにデビューしたのである。美術館という枠を超え、広く芸術を愛する人々の空間として、ちよっとおしゃれでクリエイティブなコンサートをこれからも企画し、皆様にさわやかな感動が伝わればと考えている。

ライオンのメス・ユアのメス

三枝和子（作家）

え・元永 定正

ライオンの群れ、というか、一家族をプライドというのだそうだけれど、このプライドの構成員を御存知だろうか。一家族に一頭のオス、数頭のメス、それに子供たち。そう、誰もそう思っているのだけれど、このあいだテレビを見ていて、とんでもないプライドに出くわしてびっくりした。ごらんになった方もあるだろう。

オスライオンが、何と三頭もいるのである。三頭のオスを六、七頭のメスで養っている。

——大変だなあ。

私はメスだから、いっぺんで同情してしまった。ライオンのオスは絶対に狩をしないから（出来ないから？）一頭で済むところを、三頭も寝そべって居られては、よその倍以上も獲物をとらなくてはならない。

——どうして三頭も居つくようになったのだろう。

解説者によればこのプライドにいた前のオスライオンを三頭で倒して、とって代ったのだそうである。

——ふうん、考えたなあ。一対一なら駄目でも、三対一なら、たいていの場合大丈夫だ。しかし、待てよ、三頭のあいだでケンカは起きないのかしら。

そして私は、ふとヒラメイタ。

——兄弟なのだ。

何故そんなふうに思ったかという、ギリシア神話に同腹の兄弟で乗りこんで来て、そこに前いた男を殺してその男の妻を自分のものにする例が幾つも出て来る。人

間とライオンを一緒にしないで、なんて言わないでほしい。太古の人間は母系の社会で、動物とよく似た暮らしをしていたのだから、動物の暮しかたを観察することは、人間の根源的な生きかたを知る上で案外必要なことなどではないかと私は思ったりするのである。

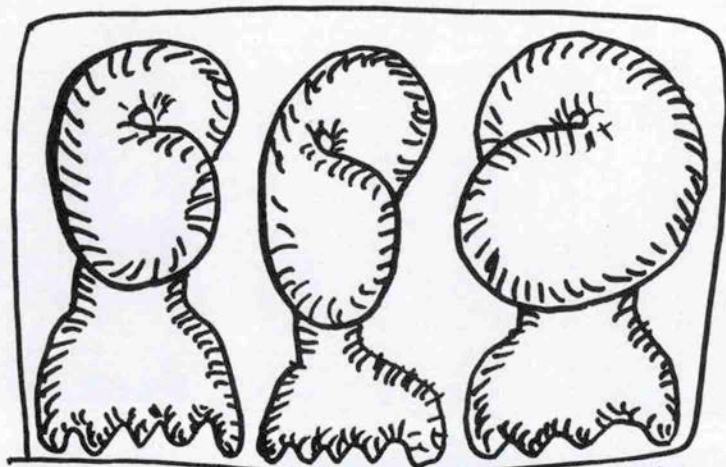
ギリシア神話に出て来る兄弟で乗りこむ話は、スパルタ王テュンダレオスのところへやって来たアガメムノンとメネラオスの兄弟の例がもとも有名だ。彼らは先ずテュンダレオスの姉妹クリタイメストラの夫タンタロスを、その子もろとも殺して、アガメムノンはクリタイメストラと結婚、メネラオスは、妹娘のヘレネが未婚だったのでこれと結婚する。

ヘレネとメネラオスのいきさつは色々あるが、ここでは述べないとして、兄弟で乗りこんで前の夫を殺したのがライオンそっくりだ。その子を殺すのも動物そっくりだ。動物が前のオスを殺してその群に乗りこむときは、前のオスとのあいだの子供をみな殺しにしてから新しく自分の子供を生まそうとするそうだから。

それにしてもあの三頭のオスは考えたものだ。兄弟三人集まれば強い、三本の矢は折れない、とまさか毛利元就の教えを知っていたわけではあるまいに。しかし、この点から割り出して考えて行くと、オスが一頭しか生まれて来なかった場合は可哀そうだ。この三頭のライオンのプライドにはリーダー格の狩のうまいメスライオンが

いたが、このライオンに三頭の子供が生まれた。オス一頭メス二頭である。

テレビはその成長をフォローして行くのだが、メスは一人前？になっても群に残るが、オスは発情期が来ると出て行かなければならない。リーダーライオンの子供、オスも出て行き、リーダーはまた新しい子供を産んだが、そこへ、出て行ったはずのオスライオンが戻って来た。



S. Motonaga '92

尾羽うち枯らして、という表現が本当にびびりすぎるくらい、ひどく弱って帰って来た。年とったライオンの尾羽うち枯らすのも哀れだが、まだ若い、成獣というには、あまりに幼いライオンが、しょんぼり、ひよろひよろしているのも、何とも憐れみをそそる。一頭で群れへ入りこむ力はもちろんないし、餌をとることもできない。空腹に堪えかねて、もとの家族のところへやって来たのだろう。母親のところへ、甘えたようにすり寄って来た。

ところが、である。母ライオンはその太い前肢で若いオスを払い除けた。さすがに傷つけはなかったが、歯をむき出して吠えた。若いオスライオンはしょんぼりと群れを離れた。離れたけれども、一頭で歩き出す元氣はないのだろう。一定の距離を置いて、群れの見えるところにうずくまった。肩を落して(そんなふうに見えた)、影が薄くて、あのままでは決して生きていけないことがはつきりしている。しかし母ライオンは見向きもせず、新しく生まれた子供を遊ばせている。

「可哀そうに。ちよっと入れてやって食物でもやればいいのに」

一緒に見ていた妹は涙もろいので、もう泣き出して「死ねなあ、あの子は、もう死ねよ」

しかし、ここが大事なところなのだろう。人間のメスはそれが出来なかった。「お入り」と言って、その弱虫のオスを群れに入れてやったにちがいない。私も妹と一緒に泣きそうになりながら、しかし、きりきりしていた。

おそらく、ヒトのメスのこの優しさが、ヒトの家族を男性中心のものにしてしまったのではないだろうか。ヒトのオスが動物のオスの持つ厳しさ、オス同士が戦うという厳しさを忘れ、群れのなかで押さえつけやすいメスを押さえて今日の男性優位社会を築いたのではなからうか。だとすれば、これらすべての発端は、ヒトのメス自身の性癖によるものだから、誰を恨むわけのものでもない。ライオンに教えてもらって、やっとそれが分った。



□ 随想／私と神戸

アモーレ

アモーレ

上はワイン城のバックス像の前で

愛のローマ・愛の神戸

ヴィルジリオ・モルテツト（彫刻家）

僕がローマから神戸へ初めて来たのは1972年、友人の彫刻家・新谷琇紀さんが、さんちかタウンへ「アルバ」の像を創り設置したときのことだ。

琇紀の「アルバ」の像をアトリエから、かついで運ぶのを手伝ったのが20年前のこと、大変印象深く、ついこの間のことのように思い出す。

次は、ポートアイランドの「モードピア」に琇紀が、「ヴィクトリア」（勝利の女神）や「愛の讃歌」の女神たちなど9体の男神も含んだ彫刻の除幕式のときに神戸を訪れたのが、5年前の1986年のことである。

今回は琇紀が、生田神社会館で「バーボンクラブ」の二人展を画家石阪春生と一緒に開いたのと、神戸市北区の藤原台にある兵庫トヨタ自動車の広大なカーライフリゾート「リノス」のギャラリーで作品展が、同じ時期に開かれたこともあって、妻のフランカと一緒に神戸へ再びやってきたのだ。

20年前の神戸は、スモッグに囲まれた街だったけれど5年前に来神したとき、空気がきれいになってスモッグがなくなっているのには驚いた。20年前は、山へ登ってもスモッグで遠望がきかなかったのに、今はとてもクリーンな街になったのは非常にいいことだね。

そして街をあるいている女性たちが多くなり、レストランや、ティールームに女性グループがとても多いということも素晴らしいことだ。そして20年の間に、神戸の街角のあちこちで琇紀の創り出すミューズ（女神）の像も増えて、美しい街になったと思う。

さんちかタウンの森本専務（現サン株式会社社長）と2人で神戸の山へ登ったこともある。修法ヶ原でポートに乗ったり、2人ともカトコトで歩いたのだから面白い。森本さんは「タバコ、酒、バクチ、女もきらい?」というマジメな人で、私は、そんな人生はとんでもない、「アモーレ（愛）がないなら灰になった方がましだ」と叫んだのだけれど全然森本さんに通じない。琇紀のところに行つて初めて日本語で伝えてもらって、やっと僕の「愛の人生」を判ってもらえた。

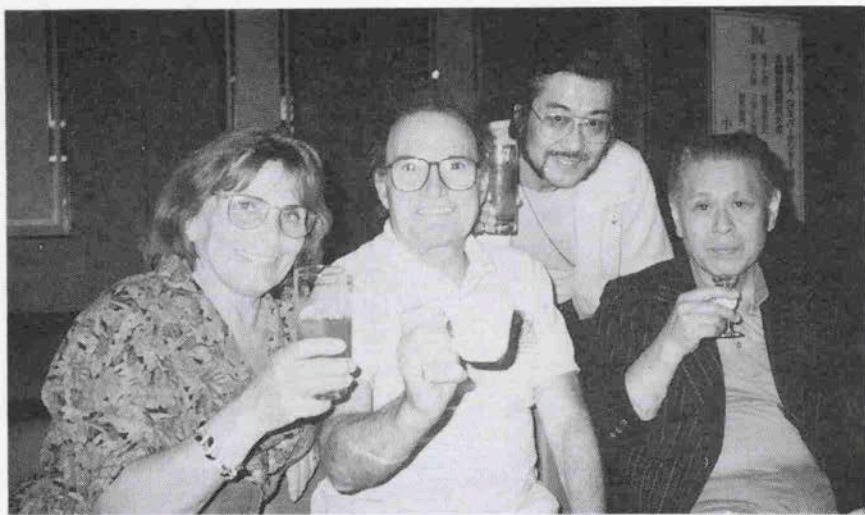
僕とフランカと出会ったのは、彼女が16才のときだ。

オステイアの港町の海岸で、海を見ているフランカと出会った。その後、偶然にローマ市内でまた出会ったのだ。それも、ソレッラ・フォンタナの姉妹のブティックで、縫い子さんだった彼女が店の2階で働いていて、僕を見つけて上からボタンや小石を投げたのだ。

陽気な僕と気の合った彼女と、自転車に相乗り

してとても楽しかった。ヴィットリオ・デ・シーカの映画「自転車泥棒」を想い出してください。39年前のことだから自転車でデートし、バーチョ（キスの意）は早かったけれどsexは結婚までしなかったぐらい当時は純情だったの。

僕は生粋のローマっ子だから、古代ローマ帝国からの偉大な文化を受け継いでいるという誇りがあって、何があっても動揺しない。わが道を行



左よりモルテット夫妻・新谷瑛紀さん・森本泰好さん（トム・キャンティで）

く”といったところがある。

古代ローマ時代から、ローマは人種のるつぼ。

今も、アメリカ、ユーゴスラビア、アフリカなど世界各国の人間を受け入れて、ローマっ子はインターナショナルだ。そして、あらゆるヨーロッパ文化の原点がローマにはある。

ローマ人の彫刻は、先祖のエトルスク人が、柔らかい石を彫って洞窟で家造ったり、墓造ったりしたので、子供の頃から石の外側や、中側をけずり”形”を創ることに始まる。

だからローマ人は立体思考的であり、彫刻の立体感もその伝統文化をしっかりと身体の中の血の中に受け継いでいる。

僕は父が彫金師で、12才の頃から父の工房に通って彫っていた。彫金や彫塑もやってアルチザンとしての腕を磨いたが、僕のクリエイターとしての仕事は”愛”をテーマに作品をつくりつつけることである。

愛妻のフランカは、結婚して子供も2人育ててくれたけれども、僕の仕事の苦労や悩みを話し合っただけで問題をとりのぞき、そのしんどさを2人でわかちあった。年と共に2人の”愛”は深まっている。そして僕の彫塑や彫金も、”愛”をテーマに、ブランドづくりも始める筈になった。

僕はフランカと共に”愛”の作品づくりにこれからはローマ人としての誇りを持って、創りつつきたい。

僕たち2人が、手をつないで神戸の街を歩いていると森本さんから「モルテットさんから”愛”をとると人生がないね」といわれた。それにしても美しくなった神戸の街には”愛”の若い恋人たちが多くなり、神戸はぬくもりの感じられる立派な”愛の街”になりつつあると思う。



□トランペット片手にブラジル一人歩き△▽

色のための署名運動

絵と文 右近 雅夫 △在ブラジル・サンパウロ▽

六年前に買った僕等のアパートは日本式にいうと14階建てのビルの11階で、このビルには建坪134㎡のアパートが各階に二軒宛、合計24有る。白い壁にテラスの付いた Mediterranean (地中海式) 建築で、中庭は入口のアーチの下まで石畳が敷かれている。日本では Mansion と呼ばれることだろうが、ここサンパウロではその部類に入れない小ぢんまりしたアパートだが、我々親子三人家族にとっては丁度良い。

ビルは一年に一度住人投票で選ばれた Síndico (住人代表)、Conselho (監査役) 等に依る管理委員が管理に当っており、三カ月に一度ビルの一階のサロンで予算報告を兼ねた会議を開く。各アパートの持ち主がこの会議に召集されるが、いつも出席者は半数にも満たない。去る四月の中旬、ビルの塗装の予算に関する会議があったが、当日も出席者は十人にも満たなかった。会議の一端に、いつも殆んど顔を出したことの無い8階の住人、Ruizinho が現れた。証券関係の仕事をしており、出勤時間帯が違いためか、ビルのエレヴェータでも殆んど顔を会わすことが無く、僕は余り親しくしていない奴だ。「俺がヨーロッパ旅行した時、気が付いたんやけど……」と切り出し、いきなり彼は僕等の住んでいるビルをセピア調に塗り変えることを提案した。従来の白色だと汚れ易

いというのが理由だが、僕はとっさに立ち上って、「然し此のビルを建てた時、設計者が白色を選んだのだから、第一白じゃないとメデイテラーネオ式の建築には似合わないよ!」と反論した。それまで殆んど発言したことの無い僕が突然反対したので皆驚いたようだが、採決の結果ルービニヨの方が6対3で勝ち、ビルはセピア調に塗り変えられることになってしまった。

翌朝僕は6階に住む仲の良い Frederico に、「お前等会議に出席せんさい、えらい事に成ってしもうた……」と事の始終を伝えた。彼は「ブラジル人の奴、考え無しに何でも新しいもにとびつきよるさかい……」とボヤイタが、結局ドイツ人のナチスタと皆に嫌われている彼は表に出さず、僕が反対の署名運動をする事になった。家内のマリアは仲の良い隣りの奥さん Raimunda に電話をした。昨年郊外に引っ越してしまつてアパートを売りに出しているがその儘空屋になっている。彼女もセピア調に塗り変えるとアパートの値打ちが下がるという僕等の署名運動に協力してくれる事になった。24のアパートの内、7軒は借家に成っている。昔住んでいた所有者が他に引越し、人に貸しているからだ。16年前ビルが建った時からの住人、Frederico と Raimunda は昔親しかった所有主に署名をもらう様子を折ってくれた。

一方僕とマリアは一軒一軒アパートを訪問、署名を頼んで歩いた。ルービニョの向いに住む Candia は彼の奥さんと仲が良いので心配していたが、家内に、「友情と自分の好みは別問題よ」といって署名してくれた。ビル色の問題で始めた署名運動は僕等にとって良い経験に成った。普段う

さんくさい奴だと思っ

ていたのが案外良い人だったという場合がある。僕のアパートの一階下に住む Sr. Teixeira は拳斗家見たいな面をした「うるさ型」だ、「ルービニョとシンジの Waldemar、

調査役の Sr. Dominbos の三人はグルで昔からこのビルの運営を牛耳っている。ジャボネースのお前が彼等に一泡食わすのを見ていると痛快だ」といって応援してくれた。

ビルの定款に依ると先の採決を無効にするには18のアパートのオーナーの署名が必要である。四階のオーナー、

Sr. Aní の電話番号を借家人から聞き出し、面会を申し込むと、「忙しいから」と相手にしてくれない。やっと事務所ならOKだということで、Brigadeiro 大通りに近い Cartório de Protesto (不渡り手形登記所) に行った。幾くつもの開門を通り最上階の所長室で面会を許されたが、彼は一寸とつつきにくそうな人だ。僕は不渡

REUNIÃO DE CONDOMÍNIO



り手形を出す、納税者番号でコンピュータを見ると前科が解る様になっている事を思い出し、咄嗟に自分の番号を名刺に書き込み、「Sr. Aní」紹介状も無しで貴方に面会を求めたのだから、先に信用調査してもらっても結構ですよ」といって差し出すと、「なかなか面白いジャボネースや」といって心良く署名してくれた。

アパートのビルの地下のガレージには夫々車2台宛入る Box を持っている。僕の左側はトルコ人右側はユダヤで二人は仲が悪い。トルコの方は直ぐに僕を支持してくれたが、ユダヤ人の Ukon は、

「若し皆がサインしたら18番目は自分がしてやる」といった。

あれから二カ月、僕の反対署名運動が効を奏し臨時会議が招集された。当夜は僕の味方の連中がサロンに入り切れぬ程集り、採決の結果、11対7でビルは白に塗られる事に決まった。

会議が終るや、遠路駆けつけた Ramia 夫婦始め近所の人達が大勢僕のアパートにやって来てシャンパンで乾盃した。Sr. Teixeira は素人はなれた。ピアニストで僕は夜が更けるのも忘れてトランペットで彼とカルナヴァルの曲を吹きまくった。

奈良市写真美術館

— 風景づくりの原点に近づく —

嶋田 勝次^{△神戸大学工学部建築学科教授▽}

奈良を訪ねれば訪ねる程深い味わいが楽しみになって来る。この頃は奈良に住む息子夫婦に長男が生まれたので、一層その孫の成長を見る喜びも倍加して、早く会いたいと思っていた矢先に、この美術館が誕生したので、その興味もふくれてきている昨今であった。

この美術館は奈良公園や春日大社の直ぐ西の国宝新薬師寺隣りの敷地に新しく造られたものである。

この完成は昨年平成3年末であったが、現在新薬師寺の古い建築が修復中なので、見違える姿を見せてくれるのが楽しみである。

やや高台に建っている新薬師寺の建築に対して、一段低い敷地にのめり込むように建てられたこの新しい美術館が、奈良の古い風土に溶け込んでいるのがよい。

地下二階地上一階建の一階部分ののびのびしたエントランスホールを入って直ぐ地階にある展示室を見学することになる。この階が主な機能を展開するところとなっているので、これまでの美術館とは異なった環境を生み出しているのが新しい効果となっている。

建築は単純明快寄棟造の大屋根

の本瓦葺だけであり、この敷地の奥に新薬師寺の屋根がのぞくというように、周辺のデザインの要素を極力少なくしてきたところは誉められてよい。

当地は奈良県の風致地区条例第3風致地区内にあつて、厳しい形態規制があり、新薬師寺との距離を充分確保すること、屋根は仏堂建築様式の本瓦葺とすること、高さは薬師寺から八・二メートルより低く押さえること、自然の地形をできるだけ残すことなどのガイ



奈良市写真美術館

ドラインに従って設計を進められたという。設計は黒川紀章建築都市設計事務所で行われたということなので、黒川氏が他の都市で実施されて来た計画感覚とは大分異なっていることに對して、多くの制約がこの奈良の地ではよい方向に作用してきたように思えてならない。

この美術館は生涯奈良の風景や仏像などを撮影し続けてきた奈良在住の写真家江奏吉氏の作品の原画や先生のコレクションなどの寄贈を受けた奈良市では美術館を建設して、その好意にこたえようとしたものである。

写真美術館といえは、以前酒田市で土門拳記念館が建築され、その紹介をしたことがあるが、その時に見事な建築を設計された谷口吉生氏に對して「爽やかな共感いっぱい」と賞賛したのだが、この奈良の美術館については、黒川紀章氏の巧みな実力に対する評価も当然必要だが、その前に奈良側の沢山の制限を見ただけでも、よく徹底した制限を設けてくれた御苦労に對して、拍手をまず送りたい。この美術館の売店で、入江奏吉先生の「大和しうるわし」の小冊子を購入した。その中の文章ひとつひとつに感心していた。

「……そのさりげない景観に、風景の「風」の趣きが醸されているのである。風は風味、風趣、風雅、風流、風格などという時の風である。それの意味するものが、風景を決める鍵を握っているのではないか。それは、風景の中に醸し出される余情、気配といったものか。と思う……。」ともある。



「綺麗」

は自信です。

美容整形に興味はあるもののホントに大丈夫？とも思いますよね。そこで美容外科の第一線で活躍中の小国クリニックの小国英昭院長にお話をうかがいました。

——好評だという顔のシワ取り手術についてお伺いしたいのですが。

院長 フェイスリフト（顔のシワ取り手術）は、筋膜（表情筋）を処理する最新の技術、SMASS（スマッス）法を使用しています。入院は不要、腫れも少なく、もちろん顔の表情が変わる心配もありません。

——顔全体を包帯でグルグル巻きという事は…。

院長 ありません。SMASS法は従来のような広範囲の剝離もなく、手術後3日目から普段の生活に戻るこゝとが出来ます。

——安全な上にスピーディーですね。

院長 この手術はシワだけでなく、若い方の頬のたるみにも応用出来ます。

——脂肪吸引術も好評だと伺ったのですが。

院長 当院ではウェット・メソッド法という、生食がメインのオリジナル混合溶液により、脂肪を柔らかくし、短時間で吸収するという方法をとっています。顔から足首まで、瘦せたい部分だけを細くし、お望み通

りのプロポーシオンになって頂けます。この手術も入院不要です。

——いったん痩せても元に戻るんじゃないですか。

院長 一度脂肪を吸引した部分は、脂肪細胞数が急減するので、脂肪がつきにくくなります。つまり太りにくくなるということです。

——最後に一言お願いします。

院長 女性性は、美しくなる権利を持っています。コンプレックスをもったまま過ごすより、その欠点をチャームポイントに変えて、素敵な人生を手に入れて下さい。

《取材協力 小国クリニック》

小国クリニック院長 小国英昭

昭和30年、姫路市生まれ。生体部分移植手術などで知られる信州大学医学部卒業。以来、整形美容界であらゆる経験、研究を重ね、その実績は2万人を越す手術症例数で実証され、他の追随を許さない。平成元年、大阪梅田にて当院を開院。柔和で温厚な人柄で患者の精神的不安と悩みを払拭し、丁寧なカウンセリングと高度な診療を施すと好評を得ている。
■日本美容外科学会正会員 ■日本医師会A会員 ■大阪府医師会正会員 ■北区医師会正会員

美容外科・泌尿器科・形成外科

オ グ ニ

小国クリニック

■大坂本院

大坂市北区堂山町17-15

若原ビル4F 〒530

☎06-365-0123

J R大坂駅、阪急梅田駅より徒歩5分。
ナビオ阪急、東へ徒歩2分。

■姫路カウンセリングルーム

姫路市南駅前町91 森田ビル2F

☎0792-84-4060 〒670

J R姫路駅南出口スグ

※当相談室では、診療などの医療行為は一切行っておりません。

◆相談は一切無料です。

◆事前に電話予約の上、ご来院下さい。

診療科目

- 目……………二重ふた（埋没法・切開法）/目尻/目頭切開
- 鼻……………隆鼻/低鼻/小鼻縮小/鼻尖形成
- 顔の輪郭…エラ削り/あご/こめかみ/額
- 脂肪吸引…顔全体から足首にいたるまで（二重あごなど）
- 胸……………豊胸/乳房縮小/陥没乳頭/乳頭縮小/バストアップ
- シワ取り…顔全体/首/腹/その他
- その他…ピアス/傷跡/TATTOO/ホクロ/婦人科/泌尿器科/ワキガ（ワキガ医学研究所併設）

●第4回神戸ファッションフェスティバル衣裳文化展
〃森英恵とパリオートクチュール〃開催記念

〃西洋と東洋の出会い〃を 人生そのものに

常に日本のオートクチュール・ファッションデ
ザインの草分けとして、積極的な活動をされてい
る森英恵さん。このたび、〃KFF衣裳文化展〃
の記者会見のため神戸を訪問。大勢の記者陣に囲
まれたあと、神戸を代表するファッションリーダー
としての懇親会に花を咲かせた。



△座談会出席者▽（順不同・敬称略）

森 英恵 △ファッションデザイナー▽

小田 俱義 △弊イズム代表取締役社長▽

田崎 俊作 △田崎真珠株式会社取締役社長▽

細川 数夫 △朝ジャヴァ代表取締役▽



細川 数夫氏



小田 俱義氏



田崎 俊作氏

司会 森さんは、今回のKFF衣裳文化展の前は、どこで展覧会をされたのですか。

森 1989年に東京、1990年にパリ、モナコで、「森 英恵展」を行いました。今回、神戸で行うことを、大変光栄に存じます。

田崎 今年のバルセロナオリンピックでは、森さんがデザインされた日本選手団の公式ユニフォームが、私達の記憶に新しいところですね。

森 はい。あのデザインは日の丸をテーマにいたしましたので国内では賛否両論でしたが、外国の評判は良かったのです。ただ日本ではまだ、「日の丸が嫌い」の方もいらっしゃるようですから…。でもこれで、日の丸のアイデンティティが、少しでも確立すればいいと思っています。世界中、あのように美しい国旗はないと私は思うのですが…。

司会 今回の神戸ファッションフェスティバル「衣裳文化展」について、簡単にご紹介をお願いします。

森 今回、パリ・オートクチュール組合加入15周年を記念いたしました。私がオートクチュール・デザイナーとして今までやって参りましたことを、180点の作品と共に、紹介させていただいております。1950年代、500本以上の日本映画の衣裳を手がけました後、ニューヨークで幸運にも認められました。それから10年、東洋人として初めてパリ・オートクチュール組合への加入が認められ、そして今日まで活動して参りました。そんな日本の女性デザイナーとしての軌跡を、また子供のようになんて来た作品を、皆様に見て頂ければと思っています。

田崎 美空ひばりさんの衣裳も展示されるそうですね。ひばりさんの思い出はどのようなものがありますか。

森 あの方は、歌もステージも服も一流でしたね。いつもビデオを見て、舞台の研究をしていました。しかし、専門的なことは、みんな任せて下さったんです。存在感のある方で、頭に羽飾りのついた衣裳などを着ると、小



KFF 衣裳文化展「スターズ & モード」。
美空ひばりさんの舞台衣裳が人目をひいた。

柄な体が本当に大きく見えましたね。最後の舞台は東京ドームでしたが、病後で、ハイヒールが履けなかったのです。今回の衣裳文化展には、ご遺族が大切に保管していらつしやる20点ほどを展示させて戴きました。

小田 アメリカでの活動はいかがでしたか。

森 当時アメリカはパリ・モードで、黒い服がシックだったといった感じでした。日本には偏見がありました。大いに気概を見せようと頑張りましたが、本当に疲れました。アメリカはファッションもビジネスの国ですから、景気の良い時は、何をして、高価であっても良いものであれば売れるのですが、悪い時は、安いものしか全く売れないのです。こちらは、お金もうけだけのためにやっているのではなく、好きでやっているわけですからつまらなくなってしまうて。そしてヨーロッパへ渡ったのです。

小田 本当にエネルギーな活動をされていますね。何者にも屈しないところが森さんの魅力なのですね。

森 好きでやっていることです。それに若かったです。すね。(笑)

田崎 “好き” というのはいろいろな意味でパワーになります。やはり好きなことを仕事にするのが、一番良いということでしょうか。

司会 1990年、パリ、モナコで催された「森 英恵展」は、どのような反響がありましたか。

森 新聞では大きな記事になりました。主に「東洋と西洋の出会い」ということで取り上げられました。自分ではそんなに違うとは思っていなかったのですが、書かれたり、周りから言われたりして、あらためて自覚いたしました。

細川 昨年の「ジャンニ・ヴェルサーチ衣裳文化展」では、イタリアの歴史の重みや立体感を感じましたが、森さんの作品展も大変楽しかったです。

田崎 森さんのトレードマークともいわれるあの蝶のデザインの発想はどこから生まれたのですか。

森 実は私、島根県の中国山脈の中の小さな町で生まれて、そこに小学4年生までおりました。自然の厳しい所で、冬が過ぎて春になり、いっせいに花が咲いて



「パリ・オートクチュールの世界」。
各メゾンの写真や資料、VTR で華やかな世界を紹介。

蝶が舞うと、子供心にも本当にうれしかったのです。それから蝶を見ると、春を連想するようになりました。映画衣裳の仕事をするようになって、「夜の蝶」の衣裳も創りましたが、(笑)そうしているうちに、蝶の色や形にも魅力を感じて参りました。近くで見ると粉がふいていたり毛が生えていたりして気持ち悪いのですが、その気持ち悪さがまたファッションなんです。(笑)

田崎 そして今の森さんのイメージができたのですね。

森 初めてアメリカへ渡った時、マダムバタフライのオペラをニューヨークでみました。とても日本女性が哀れで……。日本の女性のイメージを変えなければ、と思いますね。また、アメリカは、ブランドのイメージを非常に大切にする国なのです。私、時々飽きてしまつて、蝶を入れなかつたりすると、「何か忘れているのでは？」といわれるのです。イメージを固定してしまふんですね。しかしデザイナーは、日々進んでいるわけが変わっていくものなのです。

小田 しかし森さんはこの世界の第一人者ですし、また、

女性の自立ということにおいて先駆者的存在なのは素晴らしいことだと思いますね。

田崎 賞もたくさんお受けになったのですね。フランス政府からの「レジオン・ドヌール勲章シュバリエ章」とか。

森 そうですね。しかし女性は勲章なんかつけるところがありませんからね。(笑)

司会 今回、神戸にいられていかがですか。

森 とても洒落ていると思います。さつきも話していたんですが、東京と比べて人が少なくいいですね。(笑) ファッションもきれいに見えます。また、公園もゴミが少なくて空気もきれいです。海が近いせいでしょいか。細川 神戸はすべてが南に向いています。船が港に入つて来る時は、山に向かって入って来るのです。それが美しいとよく人が言いますね。

田崎 海と山が隣接していることもあって、空気がきれいなのです。また、光が純粹に輝いていますね。だから建物もファッションもきれいに映えるのでしょうね。



上から「煌気-OZONE」、*メインイベント*「光と影」。
森英恵氏の世界が広がる

小田 いま、世界では、E.C.の通貨問題や共産圏そのものの問題など、民主主義も行き詰まって、おかしくなりつつある感があります。そのような中で、我々ファッション産業はどのような役目を果たして行くべきなのでしょう。

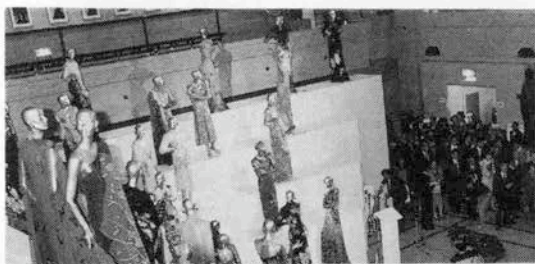
森 おっしゃる通り、民主主義も資本主義も行き詰まっていますね。いやなことも多いですが、この世の中で、人間自体が根本的に変わるしかないのです。ファッションビジネスも、変わって行くでしょうね。

小田 2030年、世界の人口は80億になるといいます。この資源の限られた地球で、もう大量生産、大量消費はないのでしょうか。

森 私はそれよりもまず、日常でベースに着るものが変わっていくような気がします。意外に早くできるかも知れないのが「縫わない服」です。

服というのは一枚の平らな布を体の丸みに合わせて縫

10月21日(水)9時から催された開会式。文化展会場の神戸市立博物館でテープカットが行われた。



っているわけですが、それが基本的におかしいと思っている人達は、大勢いると思います。私もたまにファッションのデザインコンテストの、審査員などをやったりするのですが、最近の若い人のデザインは型より「材質」ですね。それも縫っているのではなく、糊で貼りつけているのではないかと思わせるようなものですね。やがてデザイナーは、科学者になるかもしれない。でも私はそんな服はあまり作りたくありませんが。(笑)これからは真珠など、アクセサリーが大切になって来るかも知れませんよ。

田崎 これからは真珠が主役ですね。(笑)

小田 そしてこれからは森さんのような、勇気とか自由な精神が、もっと必要になって来るでしょうね。

森 これからは今までのように外国を追いかけていくのではなく、日本発信をしなくてはいいかもしれません。それが、合成繊維だと私は思っています。日本のハイテクノロジーを駆使して、天然繊維を超えたものができくるのではないのでしょうか。

司会 これからやりたいことをお聞かせ下さい。

森 今、申し上げたような合成繊維に、やはり非常に興味を引かれますね。皆さんが求めておられることは何かと考えると、やはり軽くて、着ごこちいいもの。軽くてポリウレームのあるもの、温かいけれど通気性のあるものなど。今、伸び縮みする布が世界的に流行しています。これだとサイズの範囲も合理的で、ダーツもいらissenね。

田崎 メーカーが喜びそうな話ですね。

森 このような発想はアパレルから出るべきでしょうね。そして、繊維メーカーにオーダーを出すような言いけません。

細川 森さんには、日本の若いデザイナーをこれからをもっと、啓蒙して頂きたいですね。後に続く人を育てる意味でも。

田崎 神戸はファッション都市の名のりをあげています

が、何かアドバイスがあればお願い致します。

森 神戸はやはり街の匂いに、とても魅力があるとおもいます。こういう街から、本物は生まれるのではないのでしょうか。今回はゆっくり滞在することはできませんが、KFFの会期中にはぜひ、神戸の街を見たいと思っております。

小田 また、神戸市民にも直接お話しして頂く機会があればうれしいですね。

司会 本日はお忙しいスケジュールの中、本当に有難うございました。

「コクリコの夜会服」



● KFF 衣裳文化展

「森 英恵とパリ・オートクチュール」

開催中

日時 10月21日(水)～12月6日(日)

会場 神戸市立博物館

10時～17時(入館16時半まで)

休館/毎週月曜日

主催 神戸ファッション協会・兵庫県・神戸市

・神戸商工会議所・神戸市立博物館

後援 近畿通商産業局

協賛 ハナエ・モリ・インターナショナル

入館料 一般1、100円(前売950円)

大学生 950円(前売800円)

高校生 800円(前売650円)